

電波資源拡大のための研究開発・平成20年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
基幹用ミリ波帯無線伝送システムの実現のための基盤技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> ・ミリ波帯で10Gps伝送レートのIR方式を実現したことは評価できる。 ・研究開発は予定とおり進められ、当初の目標がすべて達成されており、今後、フィールド試験を行い、実用化を目指してほしい。 ・成果は今後の新たな基幹超高速無線伝送に貢献できるもので有用な研究開発であると判断される。 	4.0
ミリ波帯無線装置の高効率化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> ・極めて良好な性能を達成しているデバイスもあり、個々の技術では十分に実用化に貢献できるものもあるが、今後実用化のためにはまだ残された課題がある。 ・特許出願が数多く行われており、知的財産に対する取り組みは十分である。成果の公表をさらに充実する意味から、学会論文誌へのさらなる公表が期待される。 ・所望の成果が得られており、今後のミリ波の普及に向け大きく貢献できる研究開発であるといえる。 	3.6
ミリ波帯無線装置の低コストの小型ワンチップモジュール化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> ・世界最高性能を数多く達成しており、評価できる点が多い。 ・数多くの特許出願が行われ、知的財産への取り組みは高く評価できる。 ・実用化にこぎつけられた成果もあり、目標の達成度は妥当なものと思います。 	4.4
偏波多重衛星通信技術の研究開発	H18～20	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を十分達成する成果を得ており、実施体制、予算共に妥当である。 ・実用化への目処は得られたと考えられる。今後は、学会論文誌での公表等に向けた活動が期待される。 ・本成果は、今後の衛星通信の基盤を支えるものであり、有用な研究開発であるといえる。 	4.3